

環境影響評価審査書

10 宇宙科学研究所相模原団地建設事業

宇宙科学研究所相模原団地建設事業予定地は、相模原市内の国鉄横浜線淵野辺駅の南方約700メートルのキャンプ淵野辺跡地の一角に位置している。

このキャンプ淵野辺跡地には、すでに国民生活センター、市立小中学校、県立高校が建設され、また今後当研究所のほか、東京国立近代美術館フィルムセンター、国民年金保養センター、市立淵野辺公園、神奈川県警察本部教養訓練施設の建設が予定されている。

宇宙科学研究所は、国立大学の共同利用機関として、宇宙科学に関する分野の研究、情報収集、教育を目的として建設されるものである。

事業予定地を含むキャンプ淵野辺跡地は、総面積約66ヘクタールあり、そのうち約19ヘクタールがすでに開発されているが、残地はマツ、スギ、サワラ、クヌギなどの高木を囲むように主にミズキが生育し、各所で自然の緑地化が進んできている状況にある。

この跡地は、すでに周辺部が市街化されたなかで、地域の生活空間あるいは緑地として相応の役割を果たしており、今後も当跡地の利用にあたっては同様の役割が求められていくものと考えられる。

このため、当研究所の建設にあたっては、キャンプ淵野辺跡地の全体的な利用計画及び市街地との関係を考慮しながら、環境保全対策を検討する必要がある。

現在、計画されている事業に対し、環境保全上具体的に検討した結果は次のとおりであるので、この内容について検討を行い、環境問題を発生させないよう配慮する必要がある。

1 大気汚染－粉じんについて

造成工事に伴う粉じんは、主に建物基礎工事のための堀削時、残土の仮置き時と搬出時及び資機材搬出入のための車の出入時に発生するものと考えられる。

事業予定地の土質は、粉じんとなって飛散しやすい関東ロームであり、事業予定地の東側には住宅が近接しているため、工事の方法などによっては粉じんが飛散し、影響が出ることも考えられる。特に、4月から9月には、住宅地に向かう南寄りの風が卓越するため、住宅地への粉じんの影響が大きくなると考えられる。

粉じん防止対策としては、洗車場を設けタイヤなどに付着した泥落としを励行する、防じん用の仮囲いを設置する、残土置場の土砂には必要に応じて散水を行うなどを予定しているが、特に、住宅側への影響を防止するため、風向・風速などの気象条件を考慮して、散水、防じん用の仮囲いの設置など、予定している粉じん防止対策の実施方法について具体的に検討すること。

2 騒音、低周波空気振動

(1)研究に伴う騒音及び低周波空気振動について

事業予定地の南側の敷地境界近くに設置される風洞実験棟では、高圧の空気を利用した超音速風洞による実験が予定されている。

この超音速風洞実験装置を構成している高出力の空気圧縮機、大型球型貯気槽、超音速風洞は、いずれも高騒音を発生し、しかも低周波空気振動を発生する可能性も考えられる。特に、超音速風洞実験時の騒音は、音源で110ホン以上となり、また貯気槽の構造、配管の方法などによっては、かなり高い値の低周波空気振動を伴うことも想定される。

計画では、騒音を防止するための対策として、建物に防音工事を施したり、消音塔を設置することにより、敷地境界線上で環境基準値の50ホン以下にするとしている。

しかし、騒音の予測の内容及び防音対策が必ずしも明らかでなく、また低周波空気振動の予測評価がなされていないので、周波数分析を含めた詳細な調査を行い、この結果をもとに防音効果のある建物構造、消音塔の規模構造、施設の位置を検討し、その内容を明らかにすること。

なお、建物構造、消音塔の規模構造などを検討するにあたっては、特に低周波空気振動の防止が有効に行えるよ

う留意すること。

（2）建設作業騒音について

建設作業に伴い発生する主な騒音としては、杭打機、コンクリートブレーカ、エンジンジェネレータなどの騒音があり、これらの騒音は防音べいの設置などの対策により、敷地境界線上で70ホンから75ホン程度になると予測し、周辺的生活環境に影響を及ぼすことは少ないとしている。

しかし、事業予定地東側には住宅が近接し、また南側には中学校が接しているため、状況によつては騒音の影響が出ることも考えられる。

このため、これらの作業を実施する場合には、住宅地、学校との位置関係を考慮し、より効果のある防音べいの設置方法を検討し、また建設作業の工法や作業時間なども併せて検討すること。

3 電波障害—テレビジョン電波障害について

建設を予定している研究管理棟の高さは30.3メートルあり、塔屋を加えると約35メートルとなる。

この建物は、事業予定地北側の比較的住宅地に近い所に建設が予定されているが、建物の位置、住宅地及びテレビジョン電波の到来方向との関係から判断すると、建物の反射などによるテレビジョン電波障害発生の可能性が考えられる。

このため住宅地との関係を考慮しながらテレビジョン電波障害の予測評価を行い、その結果をもとに必要な措置を講じること。

4 植物、景観

事業計画は、キャンプ淵野辺の跡地の一部に事業を実施するものであるが、当跡地には、すでに各種の公共施設が建設され、今後当研究所のほか、国民年金保養センターなどの建設が予定されている。

キャンプ淵野辺跡地全域の植生をみると、敷地周辺部、構内道路沿い、旧施設周辺部を中心にマツ、スギ、サワラが生育し、さらにクヌギがところどころで小さな群落を形成している。

事業予定地の植生も同様の状況にあり、樹高10メートル以上のマツ、スギ、サワラが部分的に生育し、また樹高10メートル以上の良好なクヌギも一部に生育している。さらに、まとまりのあるサクラの林も2箇所あり、これらの樹林を中心に植生域全体に新たにミズキが生育している状況にある。

これらの事業予定地を含むキャンプ淵野辺跡地の樹林地は、周辺部が市街化されたなかで、生活の場の景観として、あるいは生活空間としての役割は大きいものがあり、周辺の開発状況を考えると、今後もこのような役割を大事にするような土地利用が期待されている。

このため、キャンプ淵野辺跡地の全体的な利用計画及び環境上の配慮、さらには周辺市街地との関係も考慮しながら土地利用計画、植栽計画、景観対策を検討すること。具体的には、事業予定地内にある樹木の生育状況をさらに詳細に調査し、この結果をもとに、良好な樹木、比較的大きな樹木を極力残す方向で土地利用計画を検討すること。

新たに植栽をすることにより緑化を図る場合には、既存の樹木、住宅地等からの景観などに配慮しながら、郷土樹種を中心にして樹種、植栽の位置や方法を検討すること。また、景観の視点から、建物の配置や色彩などについても検討すること。

5 安全

（1）高圧ガスについて

風洞実験棟に付属する球型貯気槽には、10キログラム毎平方センチメートル近くに圧縮された空気が約1,800立方メートルたくわえられ、これが風洞実験に使用されることになっている。

この10キログラム毎平方センチメートルに近い圧縮空気を得るため高圧の空気圧縮機の使用が予定されているが、空気圧縮機及び関連施設では潤滑油を原因とする爆発の問題、また球型貯気槽などは圧力変動の大きな使用条件が予定されているため疲労破壊の問題が懸念される。

このため、空気圧縮機の構造、潤滑油の使用条件及び圧縮系のフローを明らかにするとともに、安全性の高いオイル止めの方法や球型貯気槽の構造などを検討し、さらに施設の使用にあたっては定期的に点検及び検査を行うなど、安全の確保のための維持管理を十分に行うこと。

（2）交通安全について

建設工事用車両の事業予定地への出入は、国道16号から市道相模淵野辺線に入る経路が予定されている。

この道路の事業予定地入口近くには小学校があるため、事業計画では交通安全対策として、小学校の通学時間帯の午前7時30分から8時30分までの間には大型車の運行を禁止するなどの対策により児童への安全を確保としている。

この市道相模淵野辺線は、通学路にもなる生活道路であり、現況の交通量から判断すると工事用車両の割合が高くなることが考えられるので、日あるいは時間ごとの車両配分などに留意し、交通安全が十分に図れるようにすること。

また、キャンプ淵野辺跡地には、国民年金保養センターなど他の施設の建設が予定されているため、これらの施設の建設日程によっては、関連する工事用車両がふくそうすることが考えられるので、工事用車両の運行台数の調整などについても検討すること。